

特別じゃないこと、はじめよう

hello volunteer

はろー
ぼらんていあ

トヨタボランティアセンター情報誌



公益財団法人スペシャルオリンピックス日本
理事長

有森 裕子

スペシャルインタビュー

知的障がいのある人たちと健常者が
一緒にできることを増やして、
この社会を変えていきたい。

No.215
2018 summer

配布・GM・GL以上(グループ・組内回覧) 人事部配布承認済

hello volunteer



No. 215
2018 summer

トヨタ自動車(株) 社会貢献推進部
共生社会支援室 社会活動推進グループ(トヨタボランティアセンター)

発行人: 朽木 英次 編集人: 上橋 聖
制作: ナンメツセ(株) 印刷: ヨクルーナス(株)

つなぐ
— TSUNAGU —

あなたの手が、その行動が、
誰かを助け、勇気づけ、笑顔に変える。
ボランティアで幸せをつなげましょう。

超える喜び。

大会のスローガンは「超える喜び。」

スペシャルオリンピックスに関わる人のみならず、ボランティアの方や協賛企業の方など、
今大会に関わるすべての人が、それぞれに描く未来に向けて、目の前にある目標を「超え」、
そこから得られるであろう「喜び」を手にしていただくという願いを込めました。



2018年第7回スペシャルオリンピックス日本
夏季ナショナルゲーム・愛知 2018.9.22-24
※観客として大会を応援いただける方を別途募集いたします。
詳しくはT-Waveで後日ご案内します

9月22日(土)	開会式
9月23日(日)	競技
9月24日(月・祝)	競技・表彰式・閉会式

ぜひ、会場に足を運んで
SOアスリートたちの競技を
体感してください。
きっと、彼らの存在は
スペシャルなものではなく、
この社会にとって当たり前
存在であることを知って
いただけたらと思います。

【関連記事はP.02～05を参照】

知的障がいのある人たちと健常者が一緒にできることを増やして、この社会を変えていきたい。



公益財団法人
スペシャルオリンピックス日本
理事長

有森 裕子

Yuko Arimori

私たちは当たり前前にあった
スポーツをする機会を、
知的障がいのある人たちに提供したい。
知的障がいのある人たちと健常者が一緒になって、
一つのチームでスポーツに取り組む姿を見てもいい、
いろいろな人が共に生きていける社会をつくりたい。
スペシャルオリンピックス日本の理事長、有森裕子さんは
スポーツの力で変えることができる未来を
見つけています。

スポーツの機会を提供するって、
どういうことだろう？

「私たちは、スペシャルオリンピックス(以下、SO)という組織で、知的障がいのある人たちにスポーツの機会を提供する活動をしています。2002年に東京で夏季ナショナルゲームがあるので、オリンピックでも有森さんに手伝っていたきたいのです」

2001年、有森裕子さんのもとに、当時のスペシャルオリンピックス日本(以下、SO日本)の理事長だった細川佳代子さん(細川護熙元首相夫人)から突然1本の電話が入った。SOの存在さえ知らなかった有森さんには、「スポーツの機会を提供する」という言葉の重さもよくわからなかった。

「私自身、生まれてからそれまで、スポーツを提供されたという感覚がまったくなかったもので、最初は細川さんの言葉がよく理解できませんでした。スポーツはアートや音楽と同じように心を揺り動かす、感情を持つ人間のいろいろな可能性を育む大切なものなのに、知的障がいがあるという理由でその機会を持ってないでいる人たちがいる。その事実とともに、SOというスポーツの機会を提供し社会参加を支援している活動があることを知り、「ぜひ、応援させてください」と即答していました」

SOは、1968年、米国の故ケネディ大統領の妹ユニス・シュライバーさんによって設立された。以来、半世紀にわたりスポーツを通して知的障がいのある人の自立と社会参加を促し、継続的なスポーツトレーニングと競技会、さらにオリンピック・パラリンピックと同様に4年に一度、夏季・冬季の世界大会を開催している。全世界172の国と地域で570万人以上の知的障がいのある人がアスリートとして活動する国際的なスポーツ組織で、1994年にはSO日本が設立され、約8,000人のアスリートが全国47都道府県の地区組織に所属し活動している。現在、このSO日本の理事長を務める有森さんが、ドリームサポーターとしてSOと関わり始めた頃のこと。

「SOの活動を始めるにあたり勉強会に参加したのですが、SOはオリンピック、パラリンピックとは違う。SOは参加することにこそ意義があり、勝ち負けは二の次でいい。ナンバーワンにならなくとも、オンリーワンになればいい」という考えの方もいらっしゃいました。どうしてそう決めつけてしまうのか、疑問を感じたんですね。アスリートたちには私たちと違う不便さ、不自由さはあるけれども、意志がないわけではない。それが本当にアスリートの気持ちに寄り添っているのかな、と考え始めたんです」

あの日、自分が感じた想いを信じて

SOの当事者であるアスリートは知的障がいがあるために、自らの想いや意志を伝えるのに不自由さ、不便さがあり、その活動においては内容の大半が応援する人、家族などアスリートを囲む人たちのさまざまな善意の想いで進められ、組み立てられている。当事者の言葉や明確な望みが得られづらい中での活動は他の活動とは違った、難しさを感じさせた。その感覚を持つ中、初めて参加した2003年6月のアイルランド・ダブリンで開催された世界大会。ここに、その後の有森さんとSOとの関わり方を決定づける出来事が待っていた。

「陸上競技を見に行ったら、スタートしたのに応援している人の所へ握手しに行っちゃったり、1位の子が2位の子を待って手をつないでゴールしたり。全員表彰(コラム参照)ということもあって、確かに競技色は薄かったですね。ああそうか、こういう大会なんだなと思いつつ有森さんは最終日、バスケットボール決勝戦の会場に向かった。この試合は、日本チームが決勝まで進んでいた。

Column SOの特徴

※ ディビジョニング

SOの競技会・大会では、可能な限り同程度の競技能力のアスリート同士で競技できるように、性別、年齢、競技能力などによってグループ分け(ディビジョニング)を行います。このディビジョニングによって、能力を十分に発揮できると考えています。

※ 全員表彰

競技会・大会に参加したすべてのアスリート(失格などを除く)が表彰台に上がり、全員にメダルやリボンがかけられます。順位だけでなく、競技場に立ち最後まで競技をやり終えたことに対して、一人ひとりに変わらぬ栄誉が贈られます。

「試合は負けてしまいましたが、試合終了と同時にチームのみんなが地団駄踏んで大泣きするんです。それはもう、ものすごく悔しがりなう。でも落ち着いたら勝ったチームに握手を求めに行ってお礼もして…そんな彼らの姿を見て、「私たちが何が違つたんだろう」と思ったんです。彼らと私たちは何も違わない。もし違いがあるとすれば、持つている可能性を生かす機会の圧倒的な量なのだから、勝ちたいと思う子には勝てるチャンスを提供したいと思う子には参加できる場を提供すればいい。私たちが得られたものと同じような機会を増やすことで、彼らの社会参加を支援できればいい」マロン・ランナーとしての経験・視点から、できることをやってみようと思った瞬間だった。

有森さんの想いは、2008年にSO日本の理事長に就任してからも変わることはない。社会参加という観点では、知的障がいのある人たちは、まだまだいろいろなことできないと思われている。しかし、その基準は健常者が決めていることであって、実は、知的障がいのある人たちと健常者が一緒にあればできることがいっぱいあるはず。その意識の差を埋めるのがSOのユニファイドスポーツという取り組みだ。

「知的障がいのある人たちと健常者が一つのチームでプレーするユニファイドスポーツを広めることによって、一緒にできることをスポーツを通じて見せ、感じてもらうれば社会の観念も変わってくると思っています。チームプレーは社会で生きる形。ともにつづけることを成し遂げた経験が、知的障がいのある人たちを受け入れる間口の広がりにつながっていきます。今のところ、ユニファイドスポーツにはサッカーやバスケットボールなどがありますが、SOアスリートと健常者のチームプレーを世の中に知ってもらう機会を増やすことで、ユニファイドスポーツの形を通して、そのまま社会の日常に落とし込み、根付かせていく。それが現在の私たちの目標です」

想いをシェアし、互いに高め合える関係へ

トヨタ自動車は、2016年から継続しているSO日本のナショナルパートナーに加え、2018年にはスペシャルオリンピックス国際本部のグローバルパートナー、さらにSOアスリートと健常者がチームを組んで参加するスペシャルオリンピックスユニファイドスポーツのパートナーとなり、オリンピック、パラリンピックと並び位置づけでサポート活動を始めている。

「今回、トヨタがグローバルパートナーとして活動していただけることになりましたが、スポーツの力をご存じの企業とつながることは、こんなにも「気にならんこと」が開けてくるものかと、正直、その存在感の大きさが



今回のグローバルパートナーシップに際し、豊田社長は「心ひとつに、共に歩んでいけるパートナーとなるよう、挑戦し続けてまいります」と述べた



アルパルク東京の試合前にユニファイドバスケットボールのデモンストレーションマッチを開催

スピード感のある展開に驚いています。私たちにもいい意味での緊張感が生まれ、自分たちの力できていなかったことに気付き、学ばせていただいています。資金的、人的なサポートだけでなく、想いも一緒にシェアし、互いを高め合うことができるパートナーとして、この出会いを大切にしていきたいと思っています」

SO日本の活動においてもユニファイドスポーツの普及を目指す有森さんにとって、サッカーとバスケットボールのプロチームを支援するトヨタとのパートナーシップの意義は大きい。既に、名古屋グランパスは今年7月にアメリカのシカゴで開催されるユニファイドフットボールカップに出場予定のSO日本・福島サッカーチームに練習場所を提供し、Bリーグのアルパルク東京の試合会場でもユニファイド

ユニファイドボール

スポーツを通じて人を変えるSOのユニファイドスポーツのシンボル。SOのロゴは、多様な才能と才能が手を取り合い、ひとつの世界をつくる姿とも言われています。



バスケットボールのデモンストレーションゲームを開催するなど具体的なサポートが始まっている。

「私たちにとっては、優れた指導者を育成することが大きな課題。SOアスリートたちの競技レベルは、指導者や環境のレベルに合わせて進歩していきますから、プロチームの皆さんに教えてもらえることはもちろん、プロのプレーを間近で見たいイメージを持っているのは、彼らにとってもすごく大きいことです」

SO日本とトヨタ自動車の本格的なパートナーシップによる大きなイベントが、2018年9月に愛知県で開催される。2018年第7回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・愛知。2019年にアラブ首長国連邦の阿布ダビで開催されるSO世界大会への日本選手団選考を兼ねる国内SOの最高峰のこの大会には、トヨタ自動車からも300人を超える従業員による運営支援

が予定されている。

「皆さんには、知的障がいのある人たちが持ち得ている能力・可能性に触れていただければと思っています。何かをしてあげる人ではなく、「一緒に大会をしていただく人」というスタンス。つお願いがあるとすれば、荷物を持つてあげるとか、何でもかんでもやってしまわないこと。彼らは、やらせてもらえる機会がなかったからできないだけなんです。SOは、スポーツはもちろん、彼らにさまざまな機会を提供する場。当たり前のことなのですが、彼らを入のパートナーとして接してください。また、大会運営には参加されない方も、ぜひ、会場に足を運んでSOアスリートたちの競技を体感してください。きっと、彼らの存在はスペシャルなものではなく、この社会にとって当たり前が存在であることを知っていただけたらと思います」

Column 知的障がいとは?

障がいのある人の定義は世界の国ごとに基準が異なりますが、日本では障害者基本法など法律や制度ごとに定義されており、主に身体障がい、知的障がい、精神障がいの3つに区分されています。SOに参加するアスリートは、知的障がいのある人たちです。知的障がいとは、記憶、推理、判断などの知的機能の発達に遅れがみられ、社会生活などへの適応が難しい状態を指しますが、環境や社会的条件で状態が変わり得る可能性があると言われてます*。

* 文部科学省HP/特別支援教育について>知的障がい教育

Profile

有森裕子 (ありもりゆうこ)

1966年、岡山県生まれ。1992年のパルセロナオリンピック、1996年のアトランタオリンピックの女子マラソンで銀メダル、銅メダルを獲得。2008年よりスペシャルオリンピックス日本理事長。2010年、国際オリンピック委員会(IOC)女性スポーツ賞を日本人として初めて受賞。

2018年第7回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・愛知については、裏表紙も合わせてご覧ください



in my HEART

アートの力で一人ひとりの心の中の感動を呼びおこします。



© FESJ/2017/Mariko Tagashira

東京ホワイトハンドコーラス

初めて大きな舞台で発表を終えて
「聴こえないけど、音楽はいいなあと感じることができた！」とニコリ。
「こつりが空の中に向かうところは、手をこうしたほうがいいよ！」
練習中も子どもたちのアイデアがとび出して、とつてもにぎやか。

Artist Profile

聴覚に障がいのある子どもたちを中心とした合唱団。
白い手袋をつけて、オーケストラや合唱に合わせ、手の動きで歌詞の意味を自分たちで考えた表現方法で伝える。
2017年10月22日には、東京芸術劇場で開催された「エル・システム・フェスティバル2017 エル・システム・ガラコンサート」に出演。
音から一番遠いところにいる子どもたちは、さまざまな人々とともに、音楽を楽しんでいる。

トヨタボランティアセンター情報誌

Contents

02 スペシャルインタビュー

公益財団法人
スペシャルオリンピックス日本 理事長 **有森 裕子**
知的障がいのある人々と健常者が
一緒にできることを増やして、この社会を変えていきたい。



07 in my HEART 東京ホワイトハンドコーラス

08 ACTION -トヨタボランティアセンターの活動報告-

竹林整備ボランティア 矢作川が見えた！
全社収集ボランティアキャンペーン2017
第1回 TDRS (トヨタ災害復旧支援) 実践講座
2017年恩返し活動「ポイント制度」寄付先が決定
第12回 トヨタバリアフリー講座「垣内俊哉氏 講演会」



12 笑い愛 -各職場の活動報告-

名古屋ウィメンズマラソン ボランティア
東北どんぐり苗木づくり
羊毛のごみ取り ボランティア
赤羽根海岸 アカウミガメ産卵地保全活動



14 縁JOY 社会福祉法人 日本介助犬協会



About hello volunteer

本誌は、ボランティアに関する旬な情報を紹介することで、日々の活動を応援し、これからはじめようとしている方を後押しすることを目的に発行しています。ボランティアは決して特別なものではありません。その一歩を踏み出してみませんか。

ACTION

トヨタ
ボランティアセンターの
活動報告

トヨタボランティアセンターでは、
従業員(家族・OB/OGを含む)を対象に、
地域を取り巻く様々な課題の解決につながるような
自主活動を企画し、実施しています。



1人ではできないことも、
皆で力を合わせれば実現できる

竹林整備 ボランティア 矢作川が

2016年からトヨタ自動車も参画し始めた矢作川の竹林整備
ボランティア活動が多くの賛同者を得て、国や市をも巻き込んだの取り
組みに発展。矢作川の河川敷は美しい景観を取り戻しつつあります。

豊田市内を流れる矢作川の川辺には竹林がたくさんあります。少なく
とも江戸時代から護岸のために竹が植えられ、さまざま用途に使われ
てきましたが、今では利用の機会がなくなり、また、ダムが多い矢作川
では川の水が減り、川辺に土砂が堆積しやすくなったため、竹林が広がり
やすくなりました。このような環境変化により、放置され、密生し、広がった
「竹林の壁」が矢作川右岸の久澄橋から長興寺に至る1.2km幅30mにも
及び、河川敷の視界を妨げてきたほか様々な問題を引き起こす可能性が
指摘されています。

- 状況改善のためには竹林整備が必要ですが、竹林整備には次のような
メリットがあると言われています。
- 1. 防災・減災／竹林が水流の妨げにならなくなり、水害（増水による
堤防決壊など）の未然防止につながる
- 2. ヒートアイランド現象の緩和／風通しが良くなることで、矢作川で
冷やされた空気が山から吹く風に乗って、暑い豊田市南西部に
届き、気温を下げる
- 3. 生物多様性保全／林の中の植物の種類が増え、植物を利用する
動物の種類が増える
- 4. 景観の向上／視界が開けて景観が向上

しかし、矢作川の竹林整備はこれまで様々な市民団体が取り組んで
きたものの、伐採する量を上回るスピードで竹林が再生し、活動の成果を
感じにくい状況が続いていました。

そんな中、2016年にトヨタ自動車が竹林整備のボランティア活動を
開始します。国土交通省や豊田市の支援のもと、トヨタ従業員の組織力を
活かしたパワーを結集し、「2年間で約1.2kmの竹林整備」と、短期でやりきる
目標を設定しました。

初回は4月。切った後の竹でつまづかないよう、地面すれすれに伐る
必要がありますが、しゃがみながらの作業は足腰に思った以上に負担がかかり
ます。川に近づくくと地面の傾斜がきつくなり、不安定な体勢が負担に拍車を
かけます。また、伐採後の10m以上もある重い竹を積載トラックまで運ぶ
のが苦勞。そして、何とんでもあまりの量の多さに「これだけ伐つても川は
見えず、竹林は思った以上に手強い相手でした。

第2回目は5月。今日は、1mでも空間を空けて矢作川が見えるよう
に「しゅう」と、皆が汗を流しながら竹林の壁を薄くして行きます。どのくらい
の時間が経ったでしょうか。誰かが「もう少して矢作川が見えるぞ」と氣勢を
上げます。その声に氣力を奮い立たせ、ひたすら竹を伐り続け、とうとう
竹林の間から矢作川が姿を現したときには、皆で協力すればできる」と、
力の凄さを実感するとともに、皆で協力すればできる」と、皆で協力すればできる」と、
そして11月には、豊田市や国土交通省も参加する大規模な取り組みとなり、2016年度はべ
1,100名が参加。ついに250mの竹林の空間から矢作川が見えるようになり、
河川敷の道路を行き交う市民も、変化した光景にびびり、「どんな空間が広がっていくか」
「今度は自分も参加したい」などの声が上がると、笑顔の輪が広がりました。

翌2017年も引き続き活動は行われ、副社長の河合さんが参加された時には皆の士気がさらに高まり
ます。最後の竹林整備(11月)時、目標達成は困難な状況でしたが、「なんとしてもやり遂げたい」「休憩も
もつたない」という思いを持つ参加者が「丸」となって竹を伐り続けます。目標達成時には鳥肌が立つ
ほどの感激を味わい、喜びを皆で分かち合いました。

この2年間に参加していただいた約3,000名のボランティアにより、矢作川が見えなかった河川敷は
矢作川が見える河川敷に変わりつつあります。

「豊田市矢作川河川環境活性化プラン」で示された矢作川の目指す姿である、「多くの市民が利用する
魅力ある河川空間づくり」「清流矢作川にふさわしい自然と景観の再生」に向け、この活動を今後も続け
ながら、トヨタとして積極的に協力していきます。



子どもたちも一生涯命取り組みました



当社役員も参加
(写真一番左:副社長の河合さん)



活動したエリア

見えた!

日にち:2016年4月~2017年11月(全13回)
場所:矢作川河川敷 久澄橋~長興寺までの
約1.2km(愛知県豊田市)
従業員のべ**2,884**名参加



2016年4月

開始当初。密集する竹林の壁に
なかなか先が見えない...



2017年11月

2年間で久澄橋~長興寺までの
1.2kmの伐採を達成



完成イメージ図

出典:矢作川水辺プロジェクト
第4回利用調整協議会会議資料より



2016年4月24日 EX会本社第2支部



2017年11月12日 MSカンパニー



ボランティアより
宮本 幸児さん

地域のために力を
合わせるパワーはすごい

MS統括部
参加するたびに竹が減り、矢作川の
景観が開けて行くのが楽しく、子どもも
一緒にできるので毎回参加しています。
普段接することのない他部署の人と
声を掛け合いながらの活動は一体感
感じます。この前、地域住民の方が
子どもに竹馬を作ってくれました。地域の
人とのつながりを感じ、嬉しかったです。
また、大人数で力を合わせてボランティア
に取り組みることが生み出すパワーの
すごさや、やりがい、楽しさ、爽快感も
味わえました。

ボランティア活動への参加は皆さんに
とってとても良い経験になると思います。

TOPICS

分野	寄付先	寄付金の主な用途(予定)	所在地
社会福祉	愛知県社会福祉協議会	児童養護施設入所者への支援	名古屋市
	豊田市社会福祉協議会	車いす福祉車両の貸出し事業	豊田市
災害復興支援	全国災害ボランティア支援団体ネットワーク	有事に備えた被災地復興支援能力の基盤強化	東京都
環境保全	表浜ネットワーク	渥美半島表浜海岸の生態系保全	豊橋市
スポーツ	スペシャルオリンピックス日本	夏季・冬季ナショナルゲーム運営支援	東京都
青少年育成	名古屋市社会福祉協議会	中学・高校生の放課後の居場所づくり	名古屋市
国際交流	豊田市国際交流協会	在留外国人日本語能力の向上	豊田市
市民活動	とよた市民活動センター	市民団体の草の根活動支援	豊田市
芸術・文化	エイブルアートカンパニー	障がいのあるアーティストの自立支援	東京都 など
安全・安心	豊田市交通安全防犯課	脱・交通事故死者全国ワースト活動	豊田市
	愛知県交通安全協会豊田支部		

2017年4月にスタートした恩返し活動のポイント制度。同年12月末までに全社累計で25万7,950ポイントとなりました。これを1ポイント＝100円に換算し、総額2,577万9,500円を左記の11団体に寄付いたしました。

恩返し活動ならびにポイント制度は、2018年も継続しています。引き続き、積極的な参加をお願いいたします。活動の詳細は「Wave」の恩返し活動ホームページをご覧ください(時間外閲覧)。



2017年恩返し活動「ポイント制度」寄付先が決定



全社から集まった約3,700枚の書き損じはがき

全社収集ボランティアキャンペーン2017

日にち:2017年12月1日(金)~2018年2月28日(水) **11,635**名参加 (過去最多)

収集物	点数	実績	寄贈先
ベルマーク	77,336.6点	苗木773本分	公益財団法人オイスカ
使用済インクカートリッジ	4,691個	苗木234本分	
使用済切手	国内切手	13.0kg	国際協力NGO ジョイセフ
	海外切手	800g	
外貨コイン	47.5kg	約57,000円分	(公財)スペシャルオリンピックス日本 (特非)ルーム・トゥ・リード
書き損じハガキ	3,705枚	約174,700円分	
古本	11件	46,577円分	
参加者数	個人 1,807名 職場単位 172職場(9,828名)	合計11,635名	

寄贈した切手を受け取ったSO日本の有森裕子理事長



自分たちが取り組んだことが人の役に立ち嬉しいです!



新入社員8人で参加したボデー先行計画部ボデーCAD課の皆さん

あなたの身近にあるものが、誰かのためになる

従業員からベルマークや書き損じはがきなどを収集し、国内外の課題解決に取り組む団体に寄贈する活動を2017年度も実施しました。今年度は、近年減少傾向にあった書き損じはがきの収集量が増加し、参加者数は現在の形でキャンペーンが開始した2013年以降で最多となりました。集まった書き損じはがき約3,700枚は、92円切手約1,900枚にして、スペシャルオリンピックス日本の有森裕子理事長に手渡しで寄贈しました。

第12回 トヨタバリアフリー講座 「垣内俊哉氏 講演会」

日にち:2018年3月17日(土) 場 所:トヨタ会館(愛知県豊田市) **83**名参加



たくさん質問が出ました

受講者より

業務品質改善部 成田 鎖与さん

「押しつけがましさはな」
「選択肢」を

今回の講座を通して、障がいのある方たちとの接し方について多くの気づきが得られました。例えば、車いすの人が知りたいた情報は、階段の有無ではなく階段が何段あるかということ。1段なら自分で上がれるが、何段もある場合は誰かに車いすを運んでもらう必要があるからです。自分の思い込みを押しつけるのではなく相手の目線視線で考える習慣を身につけ、日々の業務にも活かしていきたいです。



障がいもとらえ方ひとつで 価値や強みになる

誰もが安心して快適に過ごすことができるモノやサービスのコンサルティングを行なう(株)ミライロの垣内俊哉社長に「バリアフリー」について講演いただきました。バリアフリーとは、今まで障がいと捉えてきたことも、考え方や周囲との向き合い方ひとつで価値や強みに置き換えられるという考え方です。生まれつき骨が折れやすい難病を抱える垣内氏の生き様やメッセージは多くの参加者に気付きや共感をもたらしました。従業員一人ひとりにとって、地域や職場で障がいのある人と積極的に関わり、助け合える社会の実現に向けた行動のヒントが得られる講座となりました。

真剣に聞く参加者



講師の(株)ミライロ 垣内俊哉社長

第1回 TDRS※実践講座

※Toyota Disaster Recovery Support (トヨタ災害復旧支援) 日にち:2018年3月3日(土) 場 所:トヨタ会館(愛知県豊田市) **47**名参加

受講者より

エンジニアリング 情報管理部 木原 恵美さん

クルマに避難している人の役に立ちたい

自動車会社の一員として、車中泊やシートアレンジなどクルマに関わる事柄について、災害時にアドバイスできる知識がほしいと思い受講しました。危機管理アドバイザーや車中泊専門誌の編集長などの専門家による指導は、目からうろこの情報がいくつもありました。広い空間の作り方や必要なアイテム(タオル、衣服など)を置いておくなどのちょっとした工夫で、車中泊が楽になることがわかりました。



車中泊をテーマに被災者の支援を学ぶ

第1回講座では、豊田市災害ボランティアコーディネーター養成講座(前号P10参照)を修了した従業員が、車中泊を余儀なくされた被災者への対応について学びました。社外の専門家から、車中泊の課題や車中泊を想定したクルマのシートアレンジ法を、安全健康推進部員から、車内で簡単にできるエコノミークラス症候群予防法について学びました。参加した皆さんは、有事の際に被災者の支援を行う覚悟を新たにしていました。

熱心に聞き入る参加者たち



手軽にできる運動を教えてくださいもスッキリ



熊本地震の現場に行った経験などを話す講師の国崎信江さん



コンパクトカーでも案外車内を広く使えることにビックリ



Volunteer Schedule

7月	8月	9月	10月
 <p>7/18 水 締切</p> <p>ラグビーワールドカップ 2019 ボランティア募集 一生に一度の体験、味わってみませんか?</p>	 <p>8/4 土</p> <p>第15回 トヨタバリアフリー講座 「鈴木朋樹選手 講演会」</p> <p>トヨタの従業員である鈴木朋樹選手に、スポーツの面白さやパラリンピックに向けた夢を存分に話していただきます。</p>	 <p>9月 下旬</p> <p>トヨタ白川郷自然学校 茅刈り募集開始</p> <p>春の整備で立派に育った茅を刈りましょう! 茅葺屋根の材料となる他、野生動物との共存にもつながります。</p>	 <p>10/1・5・9・11 月 金 火 木</p> <p>「劇団四季」こころの劇場 名古屋・豊橋講演 運営サポート</p> <p>日本の未来を担う子どもたちの心を育むお手伝いをしてみませんか? 役割の合間に観覧もできます!</p>
	<p>8月 下旬~</p> <p>2018年度東日本大震災被災地復興支援活動 後期募集開始</p> <p>農業・イベント支援を行います。現地に寄り添い、活動しませんか?</p>		

ボランティアに参加してみませんか?

ボランティア募集情報・講演会情報を掲載中です。ぜひご利用ください!!

■ 恩返し活動HP

<http://nt-wave.mx.toyota.co.jp/tmc/25/Pages/AG/Ongaeshi/Ongaeshi.aspx>



■ スマイルゆうネット

トヨタグループ9社〔(株)豊田自動織機・トヨタ自動車(株)・(株)ジェイテクト・トヨタ車体(株)・豊田通商(株)・アイシン精機(株)・(株)デンソー・トヨタ紡織(株)・豊田合成(株)〕で運営しているボランティアネットワークシステム



PC・ケータイからさっそくアクセスしてみよう!

スマイルゆうネット

チェック!

※閲覧はできますが、活動に申し込むにはIDとPWが必要です。お気軽にトヨタボランティアセンターまでお問い合わせください

バックナンバー

トヨタ公式企業サイトからご覧いただけます

はろーぼらんていあ

チェック!



No.214



No.213



No.212



No.211

次回予告 秋・冬合併号とし、11月下旬に発行予定です

発行= トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部
共生社会支援室 社会活動推進グループ
(トヨタボランティアセンター)

〒471-8571 愛知県豊田市トヨタ町1番地
TEL:0565-23-3582(外線) 811-3-3582(内線) FAX:0565-23-5748
<http://nt-wave.mx.toyota.co.jp/tmc/98/volunteercenter/SitePages/TOP.aspx>

社会福祉法人 日本介助犬協会



携帯電話を探して持って来てくれます



介助犬デモンストレーションの様子

DATA

代表者 伊藤 利之
設立 2004年
住所 本部事務所: 神奈川県横浜市港北区新横浜2-5-9
新横浜フジカビル3F
介助犬総合訓練センター ~シンシアの丘~:
愛知県長久手市福井1590-51
人数 職員: 約30名
連絡先 Tel 0561-64-1277
Mail info@s-dog.jp

TOPICS

見学会のボランティアを募集
毎月1回、「介助犬総合訓練センター ~シンシアの丘~」で見学会を開催しており、駐車場での車両誘導や館内案内補助などを手伝っていただける方を募集しています。

次回 8月4日(土) 申し込み期限 開催日の前月下旬まで

介助犬フェスタには、毎年6,000名を超える方が来場されます



縁

えん-じよい

File
03

トヨタ自動車従業員が有志で活動しているボランティアサークルや、協働しているNPO、連携しているボランティア団体の活動を紹介します。

人にも動物にもやさしく楽しい社会をめざして

手足に障がいのある人の日常生活を手助けする介助犬を育成しています。日本で唯一の介助犬専門訓練施設である「介助犬総合訓練センター ~シンシアの丘~」(愛知県長久手市)では介助犬育成・普及啓発活動を行っており、月に一度般の方向けに開催している見学会や、毎年5月に愛・地球博記念公園で開催する介助犬フェスタでは、いつもたくさんのボランティアの皆さまにイベント運営をお手伝いいただいています。介助犬はまだまだ認知度が低く、一人でも多くの方に知っていただく必要があります。ボランティア以外にも介助犬募金箱の設置や未使用切手などの物品寄付など、支援につながる方法はたくさんあります。介助犬って何?という方でも大歓迎です!ぜひ皆様のお力をお貸しください。